

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	4076800061		
法人名	有限会社 エム・エス・ケイ		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	福岡県朝倉郡筑前町長者町226-5 〒838-0204 (電話) 0946-42-5569		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年11月29日	評定確定日	平成20年1月8日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 11月 6日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人 常勤	15人 非常勤	人 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての～		1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有()円	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(200,000円)	有の場合償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,650円程度	

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

登録人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	2名				
要支援1	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 91.5歳	最低	67歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	火野坂医院 しのくま整形外科 朝倉記念病院 水城病院 筑紫野歯科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療機関で看護師として従事してきた施設長が「病院・施設で暮らす高齢者の現状」に疑問を抱き、「健やかな暮らしと永遠の笑顔を願って」との思いをもって設立されたホームである。周囲はお宮、公民館、民家、田畑に囲まれ、のどかな風景が広がっている。地域の人々が育成している大根や白菜は、時折ホームへ差し入れられ、美味しくいただいた後の皮や葉っぱは入居者の可愛がるホームの畑の中へ埋められて土に帰っていく。また、新しい収穫の糧となる。エコロジ、地域交流、高齢者の生きがい、食生活等、土がすべての媒体となって地域を育て、支えあっていきる暮らしのありがたみをつくづく感じさせられる。ホームの中では全員常勤且つ有資格者の職員が長年の経験を活かして入居者の自立した日常生活をしっかりと自然にさりげなく支援している。前回の課題であった地域とのかかわりも活発となり、地域・家族・入居者・職員、皆の協力関係が十分に伺えた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題と今後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	前回の外部評価を受けて、地域行事への参加を通じての交流や非常災害時の協力体制を図るなど具体的な改善が見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	ミーティング時に外部評価の意義を説明し、職員全員に外部評価内容をチェックするなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	協力体制、地域高齢者の見守りについて提案するなど、質の向上に向けての取組みや検討が行われている。運営推進会議には行政の福祉課職員に参加いただき会議の席で、みなし入所についての質疑応答や助言を受けるなど活発に意見を交わしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)	面会時の声かけや行事、家族会への参加時等を通じて、意見や思いなどを率直に表出していただけのような雰囲気作りへの取組みがある。家族とは地域行事への参加企画などを一緒に考えるなどの協力体制が見受けられた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	地域主催の夏祭りへの参加、お宮の清掃や通学路での旗ふり、地域のスーパーマーケットの利用、日々の散歩時の挨拶、地域住民のホーム行事への参加や野菜の差し入れなど、自然な形で地域交流への取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設時より「地域との交流を持ち福祉に貢献 します」と、地域の中での関係作りを重視した 理念を持っている。地域密着型サービスとなっ たことを受けて事業所全体で更なる地域との関 係作りに取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念が掲示されており、毎朝の申し 送り時に理念を唱和している。日々のケアを通 じて理念に基づいたケアの提供への取組みがあ る。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	地域主催の夏祭りへの参加、お宮の清掃や通 学路での旗ふり、地域に在るスーパーマーケッ トの利用、日々の散歩時の挨拶、地域からも ホーム行事への参加や野菜の差し入れなど、自 然な形で地域交流への取組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	ミーティング時に外部評価の意義を説明し、 職員全員に外部評価内容をチェックするなどの 取組みがある。前回の外部評価を受けて、地域 行事への参加を通じて交流を図るなど具体的 な改善が見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、老人会長、民生委員、市町村福祉課、広域連合会、家族等の参加により2ヵ月毎に開催されている。ホーム行事の報告や地域行事の情報収集、非常災害時の協力体制、地域高齢者の見守りについて提案するなど、質の向上に向けての取組みや検討が行われている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に行政の福祉課職員に参加いただき会議の席で、みなし入所についての質疑応答、地域の独居高齢者の見守りについての助言を受けるなど活発に意見を交わしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修には積極的に参加している。契約時に制度に関するパンフレットを配布し、説明を行うなどの情報提供が行われている。またパンフレットは常時閲覧できるように壁掛けされている。		運営推進会議等を利用して広く情報を発信するなど、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるような支援を期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や家族会の開催時に、写真を閲覧していただきながらの説明と、必要時の電話連絡などを通じて入居者やホームに関することについて説明している。また年6回のホーム便りの発行を通じ、入居者の暮らしぶりを伝えるなどの取組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の声かけや行事、家族会への参加時等を通じて、意見や思いなどを率直に表出していただけのような雰囲気作りへの取組みがある。家族とは地域行事への参加企画などを一緒に考えるなどの協力体制が見受けられた。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間での離職事例はない。全員常勤職員であり、職員が長く務められるように管理者やホーム長がフォローするなど離職を防ぐ工夫と馴染みの関係性持続への取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用に関しては、何ら制限は設けていない。以前、園芸に従事していた職員には、畑仕事に携わってもらったり、楽器演奏、パソコン業務など、前職の経験や趣味、特技などを活用することができるような配慮がある。理念にも「職員一人ひとりが向上心を持ち明るく働きやすい職場を築きます」とうたい、資格取得など自己実現への支援も行っている。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権学習への個別参加や、月1回のスタッフ会議時の勉強会で言葉遣いなど認知症高齢者への対応等を通じての取り組みがある。広く差別問題や障がい者問題などの職員の人権意識を喚起するような勉強会・研修などへの取り組みまでには至っていない。</p>		<p>高齢者や福祉に関わる問題に加えて、広義としての人権問題についての理解を深めるため、行政主催の講和会等に参加したり、行政より講師を招聘し勉強会を開催するなど法人全体での啓発活動への取り組みを期待します。</p>
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の情報を職員に回して参加を募ったり、管理者から指名しての参加など、職員がまんべんなく外部研修へ参加出来るよう配慮している。また、市町村、介護保険事業者協議会主催など地域開催の外部研修には可能なかぎり全職員が参加できるよう工夫している。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護保険事業者協議会、グループホーム協議会を通して他のグループホームとの交流、情報交換や他のグループホームへの見学体験を行うなど、サービスの質の向上に向けた取り組みがある。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居開始前に昼間だけの体験利用などを通して、徐々に馴染んでもらうための工夫がある。体験利用は週1回づつ4週に渡って実施するなど、利用者の安心感に繋げながらサービスに慣れてもらう取組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑の作り方、食材の選び方や調理の方法など、日常のかかわりの中で、入居者の方々が持っている知恵を聞かせて頂くなどの取組みがある。当日もホーム自家製の干し柿を食べながら、作り方やコツ等を教えていただくなど、自然な対応が見られた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日々のかかわりの中や家族との会話等から入居者一人ひとりの思いや希望の把握に努め、アセスメントに一部センター方式を採用し職員間での情報の共有への取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	面会時の声かけや、日々のかかわりの中から、家族や入居者の意向の把握に努め、カンファで職員全員で意見交換や情報収集を行い、ホーム長が介護計画を作成している。介護計画内容は、生きがいや役割作りとして入居者のできることに着目した内容である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	月に1回のカンファレンスでプラン内容につ いての検討を行い、必要に応じて介護計画を再 作成している。最長でも6ヶ月に1度は、担当 者会議を開催し見直しを行い、プランの再作成 を行うなど、現状に即した介護計画の作成があ る。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	入居者の生家への訪問や、読書が好きな入居 者の為の巡回図書館利用など、個々の入居者の 要望に沿った支援がある。また、地域の高齢者 の見守りなどの支援がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホーム協力医への週に1度の受診支援があ り、緊急時はいつでも対応可能な体制である。 入居者の希望する医療機関への受診は、基本的 には家族で対応してもらっているが状況に応じ ては事業所が行っている。受診結果は家族と事 業所で互いに報告している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りに関する指針を示して説明を 行っている。日々のかかわり中から入居者本人 の希望を聞き、状態の変化に応じて、入居者の 希望を重視しながら、その都度家族と協議する などの取組みがあり、職員間での周知と共有が 図られている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者の視線に合わせた声かけや、ゆっくり とした馴染みの言葉での会話や丁寧に謝意を表 すなど、入居者一人ひとりを尊重した対応がみ られた。介護記録等の取扱いは、一元的に管理 されており適切であった。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	入居者一人ひとりの希望やペースを把握し、介 護計画書へ位置付けている。調査当日も入居者 の意欲を尊重した必要最小限での支援が見ら れ、日々の過ごし方、食事のペース、排泄への 対応など、あらゆる面においてその日その時の 入居者のペースを尊重した対応がみられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	スーパーマーケット等で入居者の希望で選ん だ食材や、差し入れの旬の食材、ホームで栽培 している野菜類を活用している。入居者と一緒 に野菜の採取や、下ごしらえなどをする他、調 理や配膳、下膳などの取組みとともにスタッフ も入居者と一緒に食事を楽しむなどの対応がみ られた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	原則的に週3回の入浴を実施している。入居 者の今までの生活パターンを重視し、午後から の入浴実施とし、夜間入浴希望者には夕方から の入浴を実施や、個別の洗顔料の使用など、入 居者の希望やタイミングに沿った入浴支援があ る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	入居者一人ひとりの出来る事や出来そうな事 を把握し、夜間の戸締り確認や、調理の下ごし らえ、盛り付け、読書、針仕事、畑仕事など、 役割や楽しみごととして介護計画に位置付けて の支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日々の散歩やその時々入居者の希望による ドライブや買い物、年に1度の一泊旅行、入居者 の生活歴を汲み取っての職員からの働きかけに よる外出など、入居者の希望にそった外出支援 が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に鍵は開錠されており、自由に出入 りできる。職員は入居者の様子をきめ細かく観 察・見守っており、入居者の自由な暮らしを支 える対応と安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に1回ずつの消防署の指導による避難訓練 の実施とホーム独自の避難訓練を地域住民にも 周知を行い実施している。非常時は、地域の消 防団の協力が得られる体制である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	毎食の食事摂取量を把握し、栄養状態の把握 や水分摂取への声かけ、及び水分確保に努めて いる。また、受診の際の検査データや体重の増 減から、入居者一人ひとりについての栄養状態 をおおよそ把握している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	下駄箱の上や玄関ホール壁に昔の小物を展 示し懐かしさを演出している。リビングは自然 採光を取入れ、明るさや眩しさは照明やカー テンで調整されている。換気は、窓の開閉による 自然換気が行われ、季節の野の花が飾られるな ど、居心地よい空間づくりへの工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室は、絵や書などの趣味の品や写真などの 思い出の品、タンスや衣装ケース、寝具などの 使い慣れた家具等が持ち込まれ、入居者にとっ て居心地の良い居室づくりへの配慮がみられ る。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号